

京都芸術劇場
ニュースレター

Newsletter shunjuza/studio21



京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

黒いぬ

作・演出:川村毅

出演:観世榮夫、菅野菜保之、新井純、綾田俊樹、坂上二郎/笠木誠、伊澤勉

12月15日(金)開演19:30/16日(土)開演15:00 詳細は3ページへ▶▶▶▶



撮影:ノータ



京都造形芸術大学 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム

京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科主催

モーリ・マスク・ダンス Part11 極彩色

10月21日(土)開演16:00/18:00 ※2回公演

京都造形芸術大学主催

花 -Hana-

11月26日(日)開演15:00 詳細は4ページへ▶▶▶▶▶



京都造形芸術大学主催

春秋座アンサンブル・シリーズ

第3回『古くて新しい名曲を旅して』

日時: 2006年10月7日(土) 開場14:30 / 開演15:00

会場: 京都芸術劇場 春秋座

出演: 山岡重治(リコーダー) 平尾雅子(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、上尾直毅(チェンバロ)、金子浩(リュート)、朝岡聡(司会・リコーダー)

プログラム: ルネサンス モンズィーノガリレイ編曲:コントラプント
 ヴィルジリアーノ:リチエルカーレほか
 初期バロック ピッキ:トッカータ
 フレスコバルディ:カンツオン 二調ほか
 バロック マレ:迷宮
 ヘンデル:トリオソナタ 口短調ほか
 コンテンポラリー 広瀬量平:イディール
 ※プログラムは変更になることがあります。ご了承ください



山岡重治



平尾雅子



上尾直毅



金子浩



朝岡聡

第4回『未来へ…素晴らしき作曲家たちを想う』

日時: 2006年12月2日(土) 開場14:30 / 開演15:00

会場: 京都芸術劇場 春秋座

出演: 小栗まち絵(ヴァイオリン) 松実健太(ヴィオラ) 高木綾子(フルート)

大岡仁 清永あや 田中佑子(ヴァイオリン) 牧野葵美(ヴィオラ) 中島沙理 西川彩乃(チェロ)

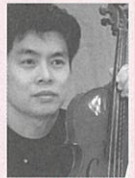
プログラム: D.D.シヨスタコーヴィチ 弦楽八重奏のための二つの小品 Op.11
 武満 徹 エア(ソロフルート)
 W.A.モーツァルト フルード四重奏曲 第1番 二長調 K.493
 F.メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op.20 ほか



小栗まち絵



高木綾子



松実健太

春秋座ならではの空間をいかして、アンサンブルの楽しさと醍醐味をお届けするためのコンサートシリーズ、「春秋座アンサンブル・シリーズ」。多彩な出演者とバラエティにとんだプログラム、そして楽器の組み合わせの意外性で、毎回好評を博しております。本格的なコンサートシーズンとなる10月と12月には、シリーズ第3回と第4回のコンサートを開催します。

第3回は、京都出身でヴィオラ・ダ・ガンバの名奏者、平尾雅子と古楽のスペシャリスト達による、ルネッサンス期の作品から現代曲までのプログラム。時間を越えた音楽の旅へと皆様を

いざないます。フリーアナウンサーの朝岡聡が、ゲスト・リコーダー奏者としてアンサンブルに加わります。

また第4回は、生誕250年のモーツァルト、生誕100年のシヨスタコーヴィチ、没後10年の武満、そして2007年には没後160年となるメンデルスゾーンへのオマージュ・プログラム。世界を舞台に活躍する若手フルーティストの高木綾子をゲストに迎え、小栗まち絵、松実健太が直弟子とともに音楽の喜びを皆さまにお届けします。

どうぞお楽しみください。

世界アーティストサミット関連プログラム

『クリスト&ジャンヌ＝クロード講演会』

Christo and Jeanne-Claude : A Work in Progress, Over the River, Project for the Arkansas River, State of Colorado

日時: 2006年10月28日(土) 14:00-17:00 (開場13:00)

会場: 京都芸術劇場 春秋座

入場料: 無料 *要事前申込、逐次通訳付き



©2005 Christo and Jeanne-Claude
 Photo: Wolfgang Volz

ニューヨークを拠点に国際的に活躍する現代美術作家、クリスト&ジャンヌ＝クロード夫妻の来日講演が10月に本学でついに実現します。《アンブレラ、日本-アメリカ合衆国、1984-91》などで日本にもゆかりのある彼らの来日講演は実に7年ぶりです。

本講演では、初期の作品から最新作《ゲート、ニューヨーク市セントラルパーク、1979-2005》までの活動の軌跡、そして現在進行中のプロジェクト《オーヴァー・ザ・リバー、アーカンソー川のためのプロジェクト、コロラド州》が彼ら自身の言葉と豊富な映像によって紹介されるとともに、来場者とのディスカッションも企画されています。

長年にわたり、アートシーンの最前線を走り続けている彼らの生の声を直接聞くことのできる絶好の機会です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

※その他、ポスター展示やドキュメンタリービデオ上映会、特別プレ・レクチャーなども開催します。詳細はお問合せください。(問合せ先は巻末スケジュール欄をご覧ください。)

京都市立高野中学校 吹奏楽部 第16回定期演奏会

日時: 2006年10月22日(日) 開場15:30 / 開演16:00
会場: 京都芸術劇場 春秋座 入場無料 全席自由



高野中学校吹奏楽部は、現在32名で活動しています。この人数はどちらかというとな少ない方ですが、その分全員が一致団結して演奏することを心がけています。日頃は、校内や地域での演奏活動、吹奏楽コンクールやマーチングコンテストなど様々な行事に積極的に参加しています。この定期演奏会は、コンクールや校内・地域での演奏会など、1年間活動してきた成果を発表する演奏会です。吹奏楽のオリジナル曲やポピュラー曲、アンサンブルやOBとの合同演奏など盛りだくさんな内容です。ぜひご来場下さい。

朝日舞台芸術賞受賞記念・キリンダンスサポート公演

第6回 恋愛舞踏派公演 田中泯 独舞『透体脱落』

日時: 2006年11月18日(土) 開場15:30 / 開演16:00 会場: 京都芸術劇場 春秋座
定礎: 土方巽 演出・出演: 田中泯 音楽: 野口実

撮影: 岡田正人



「〈私〉とは、内容のない形式である。記憶にない非在の私を踊ってみたい」。
独舞「脱臼童體」に続く「透体脱落」は、幼児期の無意識の世界まで下降した舞踏として高い評価を受け、第5回朝日舞台芸術賞とキリン・ダンスサポートを受賞しました。
本公演は、2006年版として、さらに内容を深めた記念公演となります。
現在、各地の野外など、非劇場をおもな舞台とする田中泯の劇場ソコを体験する貴重な機会です。ぜひ、ご来場ください。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

『黒いぬ』

日時: 2006年12月15日(金) 開場19:00 / 開演19:30 12月16日(土) 開場14:30 / 開演15:00
会場: 京都芸術劇場 春秋座
作・演出: 川村毅 出演: 観世榮夫、菅野菜保之、新井純、綾田俊樹、坂上二郎 / 笠木誠、伊澤勉

鑑賞のポイントとして、これは喜劇です。と書いて即座に私はおそろしい。この原稿を書いている今、戯曲の四分の程度が書き上げられているに過ぎない時点ですでにこう言い切ってしまうのが実はおそろしい。そもそも喜劇とはなんぞやという問いは時間とお金にたっぷり余裕がある方に任せておくとして、単純に喜劇とうたって本番当日客席がくすりともしなかつたらどうしようと考えると尾骨がひりひりと痛くなる。この場合、「夜も眠れなくなる」と続けるのが正解なのだろうか、私は概ねそう思うことはなく、こういうことになる。

『黒いぬ』について 川村毅
鑑賞のポイントとして、これは喜劇です。と書いて即座に私はおそろしい。この原稿を書いている今、戯曲の四分の程度が書き上げられているに過ぎない時点ですでにこう言い切ってしまうのが実はおそろしい。そもそも喜劇とはなんぞやという問いは時間とお金にたっぷり余裕がある方に任せておくとして、単純に喜劇とうたって本番当日客席がくすりともしなかつたらどうしようと考えると尾骨がひりひりと痛くなる。この場合、「夜も眠れなくなる」と続けるのが正解なのだろうか、私は概ねそう思うことはなく、こういうことになる。

五人はそれぞれ暗号名を持っていて、黒いぬがリーダーで、とんび、ジャコウネコ、北極熊、やまかがしといった面々なわけだが、そのままアカレンジャー、アオレンジャー、モモレンジャー、キレンジャー、ミドレンジャーとして見てもらってもかまわない。『スパイ大作戦』の五人の老後としてとらえていただいてもいい。

「もう老人の知恵などは／聞きたくない、むしろ老人の愚行が聞きたい／不安と恐怖に対する老人の恐怖心が」
とこれは大江健三郎氏が近作『さようなら、私の本よ!』の冒頭に掲げたT・S・エリオットの詩の一部だが、私はこれを読んだとき、唖ってしまった。
老人は偉い。人間は年齢を重ねてきたというそれだけでもう十分偉い。老人が思っている以上に私は老人を老人であるというそれだけで尊敬している。だから逆に老人には知恵をひけらかすような話はして欲しくないという思いがある。老人の愚行が聞きたい。それによって尊敬の念が失せるどころか、さらに増すだろう。
というような読書体験もまた、今回私に老人の劇を書かせるきっかけになっている。



撮影: ノニータ

京都造形芸術大学 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム
京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科主催

モーリ・マスク・ダンス Part11 極彩色

日時:2006年10月21日(土)

開演16:00/18:00 ※2回公演(開場は、各回30分前)

会場:京都芸術劇場 studio21(京都造形芸術大学内)

戯曲・構成・演出・美術・衣装:毛利臣男(京都造形芸術大学 京都芸術劇場芸術監督)

主演:藤間信之輔(日本舞踊紫派藤間流)

音楽・出演:越智義朗、越智義久(越智ブラザーズ)

仮面・舞台空間デザイン指導:大野木啓人(京都造形芸術大学芸術学部学部長)

衣装製作指導:中山和子(空間演出デザイン学科教授)

出演・制作:空間演出デザイン学科3回生

モーリ・マスク・ダンスは毛利臣男芸術監督が提唱する「コラボレーション美学」をフィロソフィーとし、戯曲・構成・演出・美術・衣裳の全てを務める、能をイメージに発想した、仮面無言劇です。

1988年金沢能楽堂で公演された山口小夜子主演「去來」が第一回目となりますが、本学では、毎年、空間演出デザイン学科3回生のゼミ発表公演として、2000年瓜生山野外能楽堂で行われた「Part4 千年花」から「Part10 Blue」まで過去6回の公演が行われています。今公演「Part11 極彩色」で7回目の公演となり、本学で最も注目される公演の一つです。

※2001年公演「Part5 アマテラス」を除く。

2006年度5月「猿之助の世界 第二章」、6月「ATG Film Exhibition」と老若男女問わず、大変たくさんの皆様からご好評を頂いている京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム。本年度初めて行われる舞台公演を2つご紹介いたします。両公演とも、今から大変注目度の高い人気公演です!売り切れ必至ですので、お早目のご予約をお願い致します!

主演 藤間 信之輔 昨年度公演写真

公演イメージ



音楽・出演 越智ブラザーズ

毛利監督の指導の下、空間演出デザイン学科3回生と第一線で活躍するプロフェッショナルとのコラボレーションで創られます。今回は、主演に若手日本舞踊家のホープとして活躍している、日本舞踊紫派藤間流の藤間信之輔と音楽・出演に、イッセイミヤケのファッションショーの音楽等で世界的に活躍している、越智義朗、越智義久を迎えます。

マスクによって表情を隠し、言葉を介さずに繰り広げられる独特の舞台空間は見るものを不思議な世界へと誘います。様々な趣向を凝らした衣裳も大変美しく、目も心も満足出来る公演です。

京都造形芸術大学 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム 京都造形芸術大学主催

花—Hana—

日時:2006年11月26日(日) 開場14:30/開演15:00

会場:京都芸術劇場 春秋座(京都造形芸術大学内)

戯曲・構成・演出・美術:毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督)

出演:栗崎 昇(花師)

金 大偉(アーティスト)

高木 克美(京都造形芸術大学教授、和太鼓研究センター所長)

恵炎(和太鼓)

恵(和太鼓・学生)

協力:有限会社 西の木 京都 花政

素材協力:柴田織物

主演
栗崎 昇

音楽・出演
金大偉

和太鼓作曲・演奏
高木克美



同時開催:

花—Hana—栗崎 昇の世界 展

日程:11月13日(月)~26日(日)10:00~18:00

会場:京都造形芸術大学 人間館1Fラウンジ

入場無料



公演イメージ

1987年、東京・青山 スパイラルホールで毛利臣男演出、栗崎 昇主演の生け花パフォーマンス「花 栗崎 昇」が開催されました。

「花に自分の魂を叩き込んでいくプロセスこそが一番大切である」と語り、独自の花の世界を切り開く花師 栗崎 昇の斬新なパフォーマンスは、その当時から数々のメディアが取り上げ、今では伝説として語り継がれています。

京都発の新作「花—Hana—」は、今回が本邦初公演となります。

毛利芸術監督の戯曲・構成・演出・美術のもと、栗崎 昇が主演を務め、音楽及び出演にアーティスト金大偉、和太鼓作曲・演奏に本学教授、和太鼓研究センター所長の高木克美、本学を拠点に活躍の場を広げる和太鼓チーム恵炎と恵が共演します。

4者のコラボレートにより、どのような新しい世界が華々しく開花するのか、ご期待下さい。

また、スーパー歌舞伎の美しい衣裳デザインで世界的に知られる毛利芸術監督デザインによる、国内有数の織物、丹後ちりめん縫取り織物で制作される衣裳も見どころの一つです。

同時開催される、「花—Hana—栗崎 昇の世界」展では、舞台上では見ることが出来ない栗崎氏の花の世界について迫ります。

part.① 公開レクチャー 『The Bridge Projectをめぐって』

日時: 2006年11月25日(土)

13:00~14:15 「ワールド・ワイド・プロジェクトの全貌」
スピーカー: リチャード・フォアマン、ソフィー・ハヴィランド
14:30~16:15 「ニューヨーク・アート・シーンの鬼才 その軌跡」
スピーカー: リチャード・フォアマン
聞き手: 内野儀 (演劇批評家・東京大学大学院助教授)
※ともに英語・逐次通訳あり

会場: 京都造形芸術大学 映像ホール(人間館 地下1階)
【料金】入場無料 【定員】100名(要予約/先着順)
【申し込み方法】お名前・電話番号を明記の上、舞台芸術研究センターまたは
京都芸術劇場チケットセンターまで事前にお申し込みください。

part.② リーディング公演 『パーマネント・ブレイン・ダメージ』

日時: 2006年11月25日(土) 開場16:30/開演17:00

会場: 京都造形芸術大学 青窓館1階 Aスタジオ
(京都市左京区白川通東鞍馬口通西入る)

【作】リチャード・フォアマン(翻訳 青野智子)
【演出・美術】杉原邦生(京都造形芸術大学大学院 修士課程)
【監修】川村毅(演出・劇作家 京都造形芸術大学助教授)
【料金】入場無料 【定員】40名(要予約/先着順)
【申し込み方法】お名前・電話番号を明記の上、舞台芸術研究センターまたは京都芸術劇場チケットセンターまで事前にお申し込みください。*

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 主催 The Bridge Project 関連企画

今秋11月、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センターでは、アメリカ前衛演劇界の鬼才 リチャード・フォアマンと、若手アーティストとして期待の集まるソフィー・ハヴィランド(共に劇作・演出家)との共同プロジェクト「The Bridge Project (ブリッジ・プロジェクト)」を開催。その関連企画として3つの公開イベントを行います。

すでにアメリカ演劇における神話的存在といわれながらも、現在も第一線で新作を発表し続け、古典作品やオペラの演出でも世界的な評価を受けるリチャード・フォアマン。プロジェクトについてはもちろん、様々な角度からフォアマン独自の世界を探ります。演劇界のみならず、美術や音楽、映像など、様々なアートに影響を与えるその活動を間近に知るチャンス、この貴重な機会をぜひお見逃しなく!

〈The Bridge Project〉とは?

フォアマン、ハヴィランドの共同プロジェクト。現在までに世界各地のアーティストや芸術系大学と協働しながら、「舞台作品での使用」を意識した映像素材を撮影。その素材については、プロジェクトに参加したすべてのアーティストに使用権を与えられる、つまり、複数の新たな作品に向かって開かれていることが際立った特徴といえるでしょう。20世紀以降の舞台芸術にとって最大のトピックのひとつである、映像文化と舞台の間の創造的な関係性が探り当てられようとしています。

(※本プロジェクトの撮影に関する参加募集は締め切らせていただいております。*演出の都合上、舞台上で大量の喫煙を行います。あらかじめご了承下さい。)

part.③ 『Music Bridge Night 巻上公一とイクエ・モリによる音楽パフォーマンス ーリチャード・フォアマンのテキストを使ってー』

日時: 2006年11月26日(日) 開場18:30/開演19:00

会場: 京都芸術センター 1階 フリースペース
(京都市中京区山伏山町546-2)

【出演】巻上公一(超歌唱家) イクエ・モリ(インプロヴァイザー・パフォーマー)
【共催】京都芸術センター

【料金】一般 前売1,800円 当日2,000円
学生&ユース(25才以下) 前売1,300円 当日1,500円
※学生&ユース券は学生証か年齢のわかるものをご提示下さい。
※全自由席 ※未就学児童のご入場はお断りします。
【チケット取扱】京都芸術劇場チケットセンター(平日10~17時)
TEL 075-791-8240 e-mail ticket@kuad.kyoto-art.ac.jp
・京都芸術センター チケットセンター 窓口販売のみ(10~20時)

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 主催 ジャン・ジュネのテキストに基づくダンス公演『恋する虜』のための公開セミナー 『裏切りとしての身体ージュネの言葉とダンスの会う場所』

日時: 2006年11月5日(日) 第1部: 15:00~16:30 公開リハーサル「ダンサーとスタッフによる、創作過程のプレゼンテーション」
第2部: 17:00~18:30 シンポジウム「ジュネの〈白〉と舞踏の〈暗黒〉をめぐって」

会場: 京都芸術劇場 studio21

【料金】無料 ※要事前申し込み/先着順 【定員】100人
【申し込み方法】お名前・電話番号を明記の上、舞台芸術研究センターまで、事前にお申し込みください。
【参加者】ダンサー: 岩下徹、砂連尾理、白井剛、寺田みさこ、山田せつ子
伊藤高志(映像作家) 杉山至(舞台美術家)
宇野邦一(立教大学教授/現代フランス文学・思想)
鶴飼哲(一橋大学教授/現代フランス文学・思想) 八角聡仁(批評家/京都造形芸術大学教授) 他



岩下徹 撮影:池上直哉 白井剛 撮影:斎藤巧一郎/TCA 砂連尾理 撮影:平野愛 寺田みさこ 撮影:塚田洋一 山田せつ子 撮影:阿部綾子

舞台芸術研究センターでは、ダンサー/コレオグラファーで主任研究員(本学教授)の山田せつ子を中心に、フランスの作家ジャン・ジュネ(1910-86)の後期作品に基づくダンス公演に向けて、「創作」と「研究」が緊密に結合した共同プロジェクトを展開しています。単に物語を素材や口実にしてダンス作品をつくるのではなく、ジュネの言葉からどんな身体性や思考の運動を読み取ることができるのか、そしてそれを現在の私たちが置かれている社会的、歴史的、政治的な状況へとどう結びつけていくことができるのかを実践的に模索し、アクチュアルな考察と問いかけを通して、現代におけるダンス表現の根源的な可能性を見出していこうとする試みです。

今回の公開セミナーでは、これまでの研究会やリハーサルの成果をふまえ、2008年春に予定している本公演、2007年3月開催のワーク・イン・プログレス公演に先立って、出演予定のダンサー、スタッフによるデモンストレーション、研究者を交えたシンポジウムを行い、ジュネの作品におけるイメージと身体の関係、ジュネが日本の〈舞踏〉に与えた影響とその意味、ジュネとバレスチナとの関わりを通じた「政治と芸術」の問題などについて考察するとともに、観客の皆さんの視線や意見に触れることでこのプロジェクトの意義と方向性を改めて検証します。

問い合わせ・申し込み先: 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437 FAX 075-791-9438 e-mail info@k-pac.org URL http://www.k-pac.org

京都造形芸術大学主催

春秋座 アンサンブル・シリーズ 第2回 『美しきブラスクインテット 世界の旅』

日時: 2006年7月22日(土) 18:00開演
会場: 京都芸術劇場 春秋座

華やかな「《ラ・ペリ》へのファンファーレ」(P.デュカ作曲)で幕を開けたコンサートは、「金管五重奏曲のための小品集より」(L.マウラー作曲)、「金管五重奏曲」(M.アーノルド作曲)と続きます。休憩をはさみ、後半も協奏曲(A.ヴィヴァルディ作曲)、「アメリカ組曲」(E.グレスボ)と続きます。曲の間には、演奏者と司会の有田栄さんによる楽器の紹介コーナーもあり、楽しくそしてわかりやすいお話しに、会場内はとても和やかな雰囲気になっていました。

会場には多くの中学生や高校生の姿も見られ、ブラス・アンサンブルの人気の高さを伺い知ることができます。大曲に挑む演奏家たちの姿に、「やはりプロの演奏はすごい!!」と感心しきり。今回のコンサートが中高生への刺激となったのではないのでしょうか。春秋座アンサンブル・シリーズはまだまだ続きます。第3回・第4回のご案内は2ページをご覧ください。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催 『瓜生山歌舞伎一市川亀治郎の挑戦』

日時: 2006年7月29日(土)～31日(月) 会場: 京都芸術劇場 春秋座



大学が主催・企画・制作した「瓜生山歌舞伎」。第一回目は、過去三回春秋座の舞台で自主公演を行ってきた市川亀治郎を座頭(ざがしら)にむかえました。片岡愛之助、中村亀鶴、坂東竹三郎、市川段四郎らの出演者にめぐまれ、充実した座組となりました。『奥州安達原』は少々難解な芝居ですが、はじめて歌舞伎を体験した人でも楽しむことができたのは、石川耕土補綴の行き届いた脚本と亀治郎の袖萩・安部貞任二役、愛之助の八幡太郎義家、亀鶴の安倍宗任、段四郎の平儀仗直方、竹三郎の浜夕という理想の配役で好演されたからです。

舞踊「松迺羽衣」は、宙乗りと奥行きのある舞台機構を生かした、「春秋座版」を亀治郎に新演出してもらいました。大小のせり、スッポン、花道などなど、春秋座に備わっているすべてを使い尽くした演出はみごたえのある舞台となりました。天女が天空に消えていく幕切りに客席は大興奮でした。

まさに一期一会。「大学だからこそできる実験と冒険を盛り込んだ、春秋座でしか出会えない歌舞伎の世界を体験していただくための企画」の趣旨に叶う、三日間だけの贅沢な舞台となりました。

公演終了後の亀治郎、愛之助、竹本葵太夫によるポスト・パフォーマンストーク、同時開催の写真展「写真家長塚誠志と市川亀治郎の挑戦」も歌舞伎への興味を誘う、大学らしい試みとして喜んでいただけました。

最後に大学主催公演の意義を的確にとらえ評価してくれた演劇評論家上村以和於氏の文章を紹介します。

「瓜生山歌舞伎」の試みはいろいろな試みがなされつつある現在の歌舞伎にとって、ひとつの注目すべきものになりうる可能性と意義をもっている。現代という状況の中で歌舞伎を如何にすべきか、歌舞伎がどうあるべきかを訴え、現実の中にそれを働きかけようとする運動であることがよくわかる。

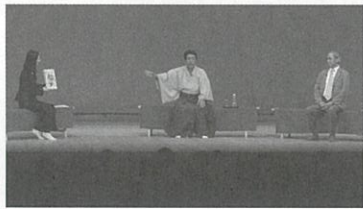
二回、三回と回を重ねることで、あらたな歌舞伎の魅力を提案していきたいと思います。

(舞台芸術研究センター主任研究員 田口章子)

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

『もうひとつの歌舞伎舞踊一女師匠たちの坂東流』

日時: 2006年9月7日(木) 13:30開演
会場: 京都芸術劇場 春秋座



古典芸能としての規範はどこにあり、どのように守られてきたのかという問題を考えるために、

実演者(坂東寿子、坂東勝友、坂東温子)と研究者(吉田芙蓉子、田口章子)による共同研究を行ってきました。舞踊の「坂東流」を取り上げたのは、坂東流の女師匠たちが、正統な江戸歌舞伎舞踊を伝えてきた流派だからです。

研究成果は三部構成で披露されました。

まず「デモンストレーション:ここが坂東流」では、坂東流を特色づける「お狂言師」とその役割、女たちが歌舞伎を伝承してきたことの意義、お狂言師・坂東三津江が果たした役割、女師匠たちの活躍など、実演をまじえながら坂東流と他流の違いをあきらかにしました。とりわけ坂東流のみに伝わる独自の「京鹿子娘道成寺」について、「口伝」、「秘伝」が解説つきで実演されたのはたいへん興味深いものでした。

二つめは、「女師匠たちと坂東流」をテーマに、坂東流家元十代目坂東三津五郎さんと歌舞伎研究者今尾哲也先生による対談。第一部で報告された研究成果をあらためて確認することができる内容が展開されました。

三つめは坂東流のみが伝承している舞踊「納豆売」の鑑賞。文政十年(1827年)に三代目坂東三津五郎が初演した風俗舞踊です。坂東流の女師匠たちによって江戸時代の舞台をそのまま切り取ったように伝承されてきた踊が、坂東寿子、坂東勝友、坂東温子によって披露されました。

また、研究公演にともない大学内ディーズギャラリーで展覧会「大正まで生きたお狂言師～坂東三津江の世界」を行いました。展示されたものは、三津江が所持していた遺品です。三津江の孫にあたる高木万五郎氏が大事に守ってきたもので、三女辻光子氏の家に残されていたものです。情報デザイン学科佐藤博一先生デザインによる展示空間で、台本、日記、手紙、浮世絵など貴重な資料とともに、お狂言師の世界を体験することができました。研究成果を研究公演と展示で発表した今回の試みは大学ならではの意義深いものとなりました。

(舞台芸術研究センター主任研究員 田口章子)

京都芸術劇場豆知識 ①

京都芸術劇場は、京都造形芸術大学内にある〈春秋座〉〈studio21〉二つの劇場の総称です。2001年にオープンして以来、国内初の大学運営による本格的な劇場として、学内の学科、研究機関などと連携しながら、企画・運営を行なってきました。また大学に併設された劇場として、学生たちの授業・発表公演、学内研究者による作品発表など、創作や実験、発表を行なう教育・育成の場としても大きな役割を担っています。このコーナーでは、京都芸術劇場がどのような場所なのか、舞台機構などを紹介しながら、少しずつですが掲載していく予定です。

さて第一回目の今回は、〈春秋座〉・〈studio21〉それぞれどのような機能を持った劇場なのか、簡単にご紹介いたします。



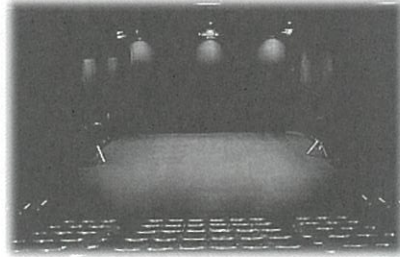
〈春秋座〉

〈春秋座〉は、客席数約800席の大劇場です。客席に入らず目にとまるのが、1階席の頭上にくるりと吊り下げられた赤色の提灯ではないでしょうか。初めてご覧になられた方は、「劇場に提灯?」と不思議に思われるかも知れませんが、これも春秋座の大きな特徴のひとつ。春秋座は歌舞伎のスタイルを基本につくられた劇場なのです。他にも、廻り盆(まわりぼん)やセリ、花道(はなみち)や鳥屋(とや)などの設備があり、本格的な歌舞伎の上演が可能です。

歌舞伎以外にも能、狂言といった伝統芸能の公演や公開講座をはじめ、現代演劇やダンス、アンサンブルコンサート、映画上映会、各学科の授業や学内研究機関によるシンポジウム、入学式や卒業式まで様々な用途で活用されています。

また大学運営の劇場という特徴のひとつとして、公演時のお客様のご案内やパンフレットのお渡しなど、フロントまわりの仕事を行なう「フロントスタッフ」、舞台の搬入や搬出、花道の撤去・復旧など、舞台に関する作業をお手伝いする「SSS」といった、学生によるアルバイト制度を設けています。いずれも、登録には研修の参加やライセンスを取得する必要がありますが、学科・コースに限らず、様々な学生が登録・参加しています。

〈春秋座〉は、学外の方にも演劇公演や上映会などを行なう会場としてご利用いただくことができます。詳細は、京都芸術劇場・劇場企画運営室までお問合せください。



〈studio21〉

〈studio21〉は、現代演劇、ダンスやパフォーマンスなど、舞台芸術におけるさまざまな実験の場を想定して作られた長方形のブラックボックス空間です。照明調光設備や音響装置を備えた調整室があり、天井グリッドには美術装置や照明機材などを自由に吊ることが出来るようになっています。また、通常10段のひな壇として設置されている客席ユニットは、組替え可能で客席数約120席、スペースの縦使いや横使いも催物毎に設定できます。

普段は映像・舞台芸術学科の教室として、また学生の稽古場として使用されていますが、その間に年間約30公演が行われています。主なものは映像・舞台芸術学科の授業発表公演、舞台芸術研究センターの主催公演、学生自主企画公演などで、時にはシンポジウムや講演会、映画上映会などにも利用されています。

学生の稽古場使用の際には、ダンスや演劇の稽古だけでなく、舞台美術・照明・音響などスタッフワークに関する実験も多く行われています。さまざまな分野から表現の方法を探る試行錯誤の場として、studio21は、学生と共に日進月歩する空間と言えるでしょう。

11月からは、映像・舞台芸術学科 舞台芸術コース4期生の卒業制作公演が順次上演され、3月初旬には優秀作品の再演を予定しています。学生たちの個性溢れ出す舞台表現を、是非ご覧ください。詳細は巻末スケジュールに記載されています。

— 瓜生山草 —

劇場の仕事についていると不思議なことに会う。

優れた台本に優秀なスタッフ、人気も実力も備えた出演者。それらが一堂に会しても楽しい作品にならない時もある。悲しい不思議。

勿論その逆も。嬉しい不思議。

「演劇にマニュアルはない。分野ごとにはあるが、総合すると……うーん、不思議。」

劇場の出会いにはホントに不思議だ。色々ありすぎて、そのうちに慣れてしまい、不思議が不思議でなくなる。それも不思議。誰もがよい作品を創って、多くの人に観てもらおうと頑張る。出来は良いが観客は少ない。

多くの人は知らない。作品は残らない

良くないのに観客は多い。今回は諦めて、次に期待しよう。

だって、こんなにお客さんが集まるのは、私の知らない、僕に分からない良さがあるんだ、きっと。

また客が集まる。その内につくらしい良い出来になる。

やっぱり良いんだ。

不思議だ。やはり不思議だ

良い作品を創っても創っても、観客が増えない。

作品は金喰い虫だから、そのうち創れなくなる。

記憶に残るだけで、ビデオや映像に残さない限り消滅してしまう。

良い作品として「何か」が欠けている。

「何か」に気付くといつまでも残るのに……。

（出）

舞台に乗ってるものだけが作品じゃない。劇場だから。（出）

京都芸術劇場
ニューズレター
Vol.2
2006.10.

発行…京都芸術劇場

発行人…毛利臣男 太田省吾

編集人…岩田廣明

デザイン…清水俊洋

発行日…2006年10月1日

月	日	曜日	開演時間	催し物	内容	会場	問合せ先	チケット販売
10月	3	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	【舞う芸と踊る芸】をキーワードに、日本伝統芸能の第一線で活躍している専門家に、実践をまじえながら解説していただく公開授業。コーディネーター：田口章子 【後期】第二回「舞楽(実演)」天王寺樂所雅亮会(解説/木戸敏郎)	春	京都造形芸術大学 瓜生山エクステンションセンター TEL 075-791-9124	常時受付 各期 10,000円 ※受講申し込みは問合せ先へ
	7	土	15:00	春秋座アンサンブル・シリーズ(全5回) 「古くて新しい名曲を旅して」	春秋座アンサンブル・シリーズ第3回公演。京都出身でヴィオラ・ダ・ガンバの名奏者、平尾雅子と古楽のスペシャリスト達による、ルネッサンス期の作品から現代曲までのプログラム。	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 京都芸術劇場 TEL 075-791-9437	一般 2,500円 学生&ユース 2,000円 友の会 2,000円 ※当日各500円増 リピート割引あり
	10	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第三回「上方舞」実演/山村若	春	※10月3日の欄をご参照下さい	
	17	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第四回「京舞」実演/井上八千代	春	※10月3日の欄をご参照下さい	
	21	土	①16:00 ②18:00	京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム モーリ・マスク・ダンス PartII 極彩色	毛利臣男芸術監督の戯曲・指導のもと、京都造形芸術大学空間演出デザイン学科3年生が第一線で活躍するプロフェッショナルと、衣裳・マスク・道具・空間構成から演出までを行なうパフォーマンス。	S	京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科 TEL 075-791-9359	入場無料
22	日	16:00	京都市立高野中学校 吹奏楽部 第16回定期演奏会	コンクールや校内・地域での演奏会など、1年間活動してきた成果を発表する演奏会。吹奏楽のオリジナル曲やポピュラー曲、アンサンブルやOBとの合同演奏会など盛りだくさんの内容をお届けします。	春	京都市立高野中学校 吹奏楽部 TEL 075-781-8134	入場無料	
24	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第五回「日本舞踊」実演/坂東温子(聞き手/田口章子)	春	※10月3日の欄をご参照下さい		
28	土	14:00	世界アーティストサミット関連プログラム クリスト&ジャンヌ=クロード講演会	ニューヨークを拠点に世界的に活躍する現代美術作家、クリスト&ジャンヌ=クロード夫妻による7年ぶりの来日講演。(逐次通訳付き) 関連企画など詳細はお問合せください。 http://irca.kyoto-art.ac.jp/	春	京都造形芸術大学 国際芸術センター TEL 075-791-9132	入場無料【※要事前申込】	
11月	5	日	①15:00 ②17:00	舞台芸術研究センター主催 ジャン・ジュネのテキストに基づくダンス公演「恋する身」のための公開セミナー 「裏切としての身体」ジュネの言葉とダンスの出会い場所	フランスの作家ジャン・ジュネの後期作品に基づく、ダンス公演に向けたプロジェクトの公開セミナー ①第1部：公開リハーサル「ダンサーとスタッフによる、創作過程のプレゼンテーション」 ②第2部：シンポジウム「ジュネの〈白〉と舞踏の〈暗黒〉をめぐって」	S	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437 E-mail info@k-pac.org	入場無料【定員100名 先着順事前申込】 ※申込は問合せ先へ
	12	日	9:55	第19回京都府高等学校演劇大会	本大会で、第41回近畿高等学校演劇研究大会、第26回近畿高等学校総合文化祭の京都府代表校が選出されます。	春	府立桂高校(栗田)TEL 075-391-2151 府立鳥羽高校(堀田)TEL 075-691-7448	入場無料
	14	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第六回「壬生狂言」実演/壬生大念仏講員	春	※10月3日の欄をご参照下さい	
	17	金	19:00	映像・舞台芸術学科 舞台芸術コース4期生 卒業制作「鈍突」	映像・舞台芸術学科、舞台芸術コース4期生、京極福彦による、ソロダンス公演。 演出・振付・出演：京極福彦	S	制作(山口) TEL 090-4157-9190	一般前売 800円/一般当日1,000円 学生前売 500円/学生当日 800円
	18	土	16:00	朝日舞台芸術賞受賞記念 キリンダンスサポート公演 第6回恋愛舞踏派公演 田中泯独舞 「透体脱落」	幼年期の無意識の世界まで下降した舞踏として高い評価を受け、第5回朝日舞台芸術賞、キリン・ダンスサポートを受賞した作品の記念公演。定礎：土方巽、演出・出演：田中泯、音楽：野口実	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 舞踏資源研究所/東京 TEL 03-5340-3860	一般 3,000円 学生 2,500円 ※当日各500円増
21	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第七回「能」実演/片山清司	春	※10月3日の欄をご参照下さい		
26	日	15:00	京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム 花-Hana-	独自の花の世界を探求し続ける花師 栗崎昇、映像・音楽と活躍するアーティスト 金大偉、当大学和太鼓研究センター所長 高木克美、恵炎と恵の迫力ある和太鼓演奏による、京都発のビジュアル・パフォーマンス。	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 劇場企画運営室 TEL 075-791-9437	一般前売2,000円 一般当日2,300円 友の会前売1,800円 友の会当日2,000円 学生&ユース前売1,000円 学生&ユース当日1,100円	
28	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第八回「狂言」実演/茂山忠三郎、茂山良暢	春	※10月3日の欄をご参照下さい		
12月	2	土	15:00	春秋座アンサンブル・シリーズ(全5回) 「未来へ…素晴らしい作曲家たちを想う」	春秋座アンサンブル・シリーズ第4回公演。生誕250年のモーツァルト、生誕100年のショスタコーヴィチ、没後10年の武満、そして2007年には没後160年となるメンデルスゾーンへのオマージュ・プログラム。	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 京都芸術劇場 TEL 075-791-9437	一般 2,500円 学生&ユース 2,000円 友の会 2,000円 ※当日各500円増 リピート割引あり
	5	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第九回「歌舞伎(スーパー歌舞伎)」理論/梅原猛	春	※10月3日の欄をご参照下さい	
	9	土	18:00	つのだ☆ひろ 春秋座公演 「TANG SUKATA DONG(たんすかたとん)」	産業連帯教育プログラムの一環として、プロのスタッフによる指導のもと、京都造形芸術大学の学生がスタッフ補助として参加し、コンサートを作り上げます。	春	ヤマトプランニング TEL 075-222-5300	【10月中旬発売予定】 一般 5,000円 学生 2,000円 ※当日各500円増
	12	火	16:10	2006年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第十回「歌舞伎(脚本)」理論/石川耕士	春	※10月3日の欄をご参照下さい	
	15	金	19:30	舞台芸術研究センター主催公演	かつて歴史の裏側で暗躍し、現代史を左右させた秘密工作員5人組。今は現役を引退した彼らが再結成、新たな任務か?? 川村毅が、実力個性派ベテラン俳優陣と織り成す、オトナのコメディ!! 作・演出：川村毅 出演：観世榮夫、菅野菜保之、新井純、綾田俊樹、坂上二郎 他	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437	【10月16日前売発売】 一般前売 3,500円 学生&ユース2,500円 友の会3,000円 シルバー(60歳以上)3,000円 ※当日各500円増
15	金	18:00	映像・舞台芸術学科 舞台芸術コース4期生 卒業制作「あいまいきどり」	なんのためにあたちは生きているのか…【三人姉妹】空を見上げて空っぽだとつぶつぶつやいた。三人は孤独を押し殺して三人で笑い続ける。構成・演出・振付：小島美香、津田知沙、舟木理恵	S	制作(山口) TEL 090-4157-9190	一般前売 800円/一般当日1,000円 学生前売 500円/学生当日 800円	
23	土	18:00	2006年度京都造形芸術大学大学院修士作品	「さあ、まいりましょう。あした達の戦争へー。」1984年に初演され、岸田戯曲賞候補にもなった川村毅初期代表作の一つ「ニッポン・ウォーズ」が、新たな作品として生まれ変わります。 作：川村毅 演出：杉原邦生	春	制作(土屋) TEL 090-9029-5668	【10月19日発売開始】 一般前売 1,800円 学生 1,500円 ※当日各500円増	
24	日	15:00	KUNIO 02 「ニッポン・ウォーズ」					

2006年10月~12月 京都芸術劇場スケジュール

凡例 — 春 春秋座公演 S studio21公演 指 指定席 自 自由席 電 電子チケットび取扱 <http://t.pia.co.jp/> 未 未就学児の入場も可

*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金 *ユースとは、学生または25歳以下対象

チケットお問合せ先
京都芸術劇場チケットセンター ... TEL:075-791-8240 (営業:平日10:00~17:00/公演開催日)
 E-mail: ticket@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都造形芸術大学 京都芸術劇場

Shunjuza / Studio 21

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
 tel 075-791-9437 fax 075-791-9438
 URL <http://www.k-pac.org/>

